

笠間型ライフスタイルの提案

関東地区初の本格的な滞在型市民農園として、平成13年、「笠間クラインガルテン」がオープンしました。「農芸と陶芸のハーモニー」をテーマとする新たなライフスタイルの提案です。



クラインガルテンとは

クラインガルテンとはドイツ語で「小さな庭」。19世紀半ば、ドイツをはじめヨーロッパ諸国で、庭を持っていない都市生活者のために郊外に市民農園をつくる運動が始まり、これがクラインガルテンと呼ばれるようになりました。日本での歴史はまだ浅いクラインガルテンですが、近年になって全国各地に開設され、市では、平成13年に設置しました。クラインガルテンが一般の市民農園と異なるのは、ラウベ（簡易宿泊施設）が併設されていること。ラウベに滞在しながら自分の菜園づくりを楽しみ、地域住民とも交流できる「滞在型市民農園」です。

主な施設

宿泊施設付き市民農園（50区画）

各区画ごとに、約30㎡の宿泊施設と約100㎡の菜園、芝生があります。使用料は、年間40万円で農機具は無料で使えます。（光熱水費は実費）このほか、日帰りで利用できる農園もあります。（一区画 1万円/年）

クラブハウス

多目的ホールや調理室を備えた、都市住民と地域住民の交流を図る施設。

そば処

笠間産の常陸秋そばを使用した、こだわりの手打ちそばを提供しています。

農産物直売所

朝取り野菜をはじめ、安心・安全・安価を指した「顔の見える販売」を実施しています。

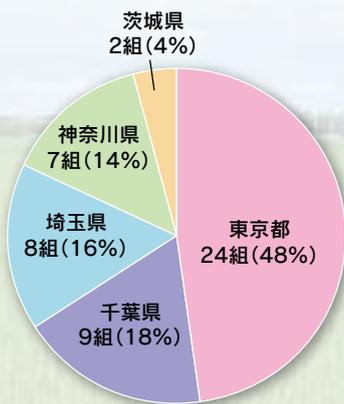
楽農工房（農産物加工施設）

いちご・うめ・ブルーベリー・りんご・野菜など地元のおいしいものを丹精込めてジャム等に加工しています。

炭工房（炭焼き施設）

簡易ドラム缶方式の窯を6基備えています。

● 宿泊施設付き農園の利用者内訳（平成18年4月現在）



ガルテンライフの楽しみ方

畑は個性ゆたか

どの畑もユニークで、誰もが自分のペースでこだわりの野菜づくりを行っています。「自分で育てた枝豆をつまみに飲むビールは最高！」

「大きなだいこんが実って感激！」

「芋ほりをさせたら、孫が喜んでくれた！」

畑はいつも、感動の源です。

農芸と陶芸

焼物のまち笠間での楽しみが陶芸。市内には陶芸教室がたくさんあり、ガルテンを利用する人の中には陶芸を楽しむ人が増えています。ガルテン内にも窯が設置され、陶芸体験ができます。自分が丹精込めて育てた野菜を料理して、自作の器に盛って食卓にのせることができます。

最高の贅沢です。

笠間を楽しむ会 2006

ガルテンを利用する人たちが組織する会。ハイキング・コンサート・料理教室などを行い、会員同士や市民との交流を図っています。

ガルテナーの生活

クラインガルテンでは、利用者の皆さんを「ガルテナー」と呼んでいます。ここでは社会的肩書きや立場、日常生活のしがらみなどから開放され、年齢・性別そして職種も関係ない、誰もが畑仕事を愛する人たちです。

佐田 敦彦さん編（東京都新宿区在住）



ガルテナー2年目の佐田さん一家。奥さんと小学生の娘との3人家族です。平日は、サラリーマンとして都内で働き、週末に家族で野菜作りと笠間生活を満喫しています。

芋ほり



今年は、天気があまり良くなかったけれど、大きなさつまいもがとれました。

交流



育てた野菜の料理を持ち寄って、ガルテナー同士が野菜談義に花を咲かす。最高のひとときです。

木村 敦さん編（千葉県千葉市在住）



ガルテナー1年目の木村さん一家。幼稚園児の息子と夫婦で、ガルテン生活を楽しんでいきます。今年も、田植えにカブトムシ捕り、そして地酒と、週末をおもいっきり楽しんでいきます。

共同作業



ガルテナーで組織した野菜クラブでの畑の草取り。みんなとの共同作業も楽しみの一つです。

収穫



収穫したとうもろこしの皮むき。粒が小さいものもありましたが、甘かったそうです。

案内図



ガルテナーの皆さんは、一人ひとりが生き生きしています。そして、市民もそのエネルギーをもらい、市の活性化につながっています。

問合せ 農政課グリーンツーリズム推進室(内線523)